

WHO ファクトシート

エボラウイルス病

Ebola virus disease

2018年1月

重要な事実

- ・これまではエボラ出血熱として知られていたエボラウイルス病 (EVD) は、ヒトでは重症化し、しばしば致命的な疾病となる。
- ・ウイルスは、野生動物からヒトに感染し、人間集団内でヒトからヒトへ感染し流行する。
- ・EVD 症例の平均的な致死率は約 50% である。過去の流行での致死率は 25% から 90% まで様々である。
- ・最初の EVD の流行は中央アフリカの、熱帯雨林に近い遠隔地の村々で発生した。2014 ~ 2016 年の西アフリカでの流行は、農村部だけでなく主要都市部にも広がった。
- ・流行を抑え込むには地域社会との連携が重要である。流行制御の成否は、症例の管理、感染予防と制御の実践、監視体制と接触者の追跡、整った検査体制、そして安全に配慮した埋葬と社会的動員などの介入を包括的に進めていくかにかかっている。
- ・補液による初期の支持療法や対症療法は生存率を高める。未だウイルスを中和して治す承認された治療法はない。しかし、血液療法、免疫療法、薬物療法などは開発中である。

本件ファクトシートについては厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)でも全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい (改定前)

© World Health Organization

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Ebola virus disease ファクトシート原文は [こちら](#)